

効果のあった実践事例

学年	第2学年	教科等	算数科
単元・内容	「三角形と四角形」 図形領域における算数用語の理解		
○ ねらい	・図形に関する算数用語や図形を構成する要素が理解できる。		
○ 手立て	算数用語を分かりやすい言葉に置き換える。動作化をともなって具体物で確かめる。		
1	辺	「へーん」と言いながら、辺を指でなぞらせる。	
2	頂点	「つんつん」と言いながら、頂点を指でさわらせる。	
3	向かい合う辺	「賞状を持つ手の位置」と言いながら、長方形のプリントを両手で持たせる。横だけでなく、縦の位置でも持たせる。	
4	三角形	「3本の直線で囲まれた図形」を理解させるために、「1, 2, 3」と言いながら、1つの頂点を出発点として3つの辺を一方通行でなぞらせる。	
5	四角形	三角形と同様に「1, 2, 3, 4」と言いながら、辺をなぞらせる。	
6	直角	「3時の形」と言いながら、両手の手の平で直角の形をつくらせる。	
○ 児童の変容	1 算数用語を図形の特徴が分かるような分かりやすい言葉に置き換え動作化することで、算数用語が図形のどこを表しているのか理解することができた。 2 動作化をともなって具体物で確かめることで、児童が図形の定義や性質を説明する際に、図形の構成要素である場所を指し示しながら説明することができた。 3 図形をつくったり弁別したりする際に、動作化を伴いながら図形を調べ、つくったり弁別したりすることができた。		
○ 実践者のコメント	算数用語は、普段、児童が使う機会が少ないので、繰り返し使わせたいと考えた。算数用語を繰り返すだけでなく、動作化し楽しみながら定着させることができた。児童の生活の中にあるものに置き換えることで、算数用語に対するイメージが定着し、図形を構成する要素が理解できた。 「新しい言葉を覚えた」ということは自信になるようで、学習の振り返りに「これから説明で使いたい」「どう説明すれば分からなかったけれど、算数の言葉で説明できるようになってうれしい」など書いていた。授業でも算数用語を使って説明し合い、図形への理解が深まった。		



